

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	14-021	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
The risk for persistent adult alcohol and nicotine dependence: the role of childhood maltreatment. 大人のアルコール及びニコチン依存の持続リスク：幼児期虐待の影響		
執筆者		
Elliott JC, Stohl M, Wall MM, Keyes KM, Goodwin RD, Skodol AE, Krueger RF, Grant BF, Hasin DS.		
掲載誌		
Addiction. 2014 May;109(5):842-50. doi: 10.1111/add.12477.		
キーワード		PMID
乱用、アルコール、子ども、慢性、原因、依存、虐待、無視、ニコチン		24401044
要 旨		
目的： アルコールとニコチン依存は、特に持続性があるケースでは、罹患率と死亡率に関連している。アルコールとニコチン依存のリスクは幼年期の虐待によって増大する。しかし、依存への経過における幼年期虐待の影響は明らかになっていないため検討した。		
方法： 3年間の追跡期間中の持続性のアルコールとニコチン依存の予測因子として、精神的、肉体的、性的虐待や身体的、感情的ネグレクトを、他の幼年期の不幸な出来事を調整し、または調整しないで評価した。米国のNational Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions (NESARC：アルコール関連障害疫学調査)データを用い、ベースライン及び追跡データがあり、ベースラインの前年にアルコール依存だった1,172人とニコチン依存だった4,017人を対象とした。アルコール/ニコチン依存及び幼児期虐待と他の幼年期の不幸な出来事（例：両親の離婚など）はAlcohol Use Disorder and Associated Disabilities Interview Schedule (AUDADIS)を用いて評価した。		
結果： 年齢、性、人種、教育歴を調整したモデルでは、精神的・肉体的・性的虐待や身体的・感情的ネグレクトは、3年間の持続性アルコール依存（調整オッズ比(AOR) 1.50-2.99, 95%信頼区間(CI) 1.04-4.68）とニコチン依存（AOR 1.37-1.74, 95%CI 1.13-2.11）と関連した。他の幼年期の不幸な出来事を調整しても、精神的・肉体的・性的虐待と身体的ネグレクトはアルコール依存（AOR 1.50-2.99, 95%CI 1.04-4.68）とニコチン依存（AOR 1.37-1.74, 95% CI 1.13-2.11）と関連した。虐待の種類が多いほど持続性依存リスクに大きく影響した。		
結論： 幼年期の虐待は大人の持続性アルコール依存またはニコチン依存の予測因子であった。この関連は、他の幼年期の不幸な出来事があるとより強くなり、虐待が依存症への経過に影響することを示唆している。		